令和7年度　美津島中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1　「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

⑴ 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

⑵ 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。

⑶ 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。

⑷ 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1　全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【＝Computer Based Testing】とする）で実施。

学年 実施月日		生徒数（人）	平均正答率（%）		平均無解答率（%）	
			国語	数学	国語	数学
3　年	学校	116	51	48	5.3	8.3
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	489
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。
この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。
※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2　中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数（人）	平均点（点）					平均無解答率（%）				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3　年	学校	118	61.3	55.3	51.4	46.3	56.8	4.1	3.4	9.2	6.6	4.8
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.5	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	64.3	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※

令和7年度　美津島中学校のあゆみ
―結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について―

調査結果から

3年生　チャレンジテスト
【成果と課題】
（理科）
大阪府平均が低かったが、それを0.3ポイント上回った。無回答率が低いことから、問題に取り組む意欲が高いと考えられる。化学領域で府平均をやや下回った。
（国語）
総合点は大阪府平均と比較して－2.9点であった。また内容別では「話すこと・聞くこと」が±0点、「書くこと」の領域が－0.1点、「読むこと」の領域が－0.6点と大阪府と差があるものの前年度よりも差は縮まっていた。評価の観点別において思考・判断・表現の観点では－0.7点だったが、知識・技能の観点では－2.9点という結果で大きな開きがある結果となった。
（数学）
大阪府と比較して平均点は-2.5点であった。どれも僅差で下回ってはいたが、記述問題などの思考・判断を問われる問題は大阪府と比較して平均点が低く、苦手とする生徒が多いことがわかる。無回答率は大阪府より上回っている問題が多く、その点では取り組もうとする姿勢に成長がみられた。
（英語）
少しずつではあるが苦手意識の強い「読むこと」への抵抗が減ってきているように感じる「読むこと」の分野においては、昨年度のマイナス0.1 点から比較すると、今年度はプラス0.3であった。わずかの上昇がみられたものの、受験に向けて引き続き積極的に取り組ませていきたい。その他の分野においても、引き続き目標設定を高く持たせ、意欲的に取り組めるような環境づくりを心掛けたい。
（社会）
2年時のチャレンジテストでは府平均＋3．9ポイント、今年度は＋4．1ポイントであった。今年度は昨年度よりもさらに出題範囲が広がった中でさらなる成長がみられた。夏休み明けに課題テストを教科独自で実施したことがこのような成果につながったと考える。

【今後に向けて】
（理科）
大阪府の平均点が低いこともあり、今後もさらに知識の定着を図り、思考力・判断力・表現力をつけていく必要がある。
（国語）
生徒の主体的・対話的な学習活動を通して、引き続き「書くこと」「読むこと」に取り組ませて、自分の意見や考えをまとめる力をつけさせたい。加えて、「知識・技能」の基礎的な学力を身につけられるように工夫していきたい。
（数学）
大阪府と比較して平均点は-2.5点であった。どれも僅差で下回ってはいたが、記述問題などの思考・判断を問われる問題は大阪府と比較して平均点が低く、苦手とする生徒が多いことがわかる。無回答率は大阪府より上回っている問題が多く、その点では取り組もうとする姿勢に成長がみられた。
（英語）
基礎・基本の定着を図るため引き続き、1・2年生の文法の小テストは継続的に行っていきたい。受験に向けた長文読解なども日々の授業の中で取り組みたいと思う。またC-NETの授業を活用し、インタビューテストやグループワークなどを通して積極的に英語を話せる機会を設け、受験に向けた英語だけでなく生きた英語を身に着けさせたい。
（社会）
問題形式では記述式の分野のみ大阪府平均との差がないため、問題演習などを通じて書く力の育成に取り組んでいきたい。